

「達人集合—この人に学ぶ—」 —働く人の話を聞き、望ましい職業観・勤労観を育てる—

東京都稲城市立稲城第五中学校主幹 後田 博

事例の 位置付け	実施学年	第2学年	☆第1～3学年
	教科等	総合的な学習の時間	☆総合的な学習の時間
	単元名	自己の生き方を考える。	

ねらい

- 1 さまざまな仕事の「達人」との出会いにより、いろいろな職業があることを理解させる。
- 2 「達人」の話・実演から、自分の生き方や将来をしっかりと考えるきっかけや指針をつかませ、望ましい「職業観」「勤労観」を育む。
- 3 地域の「達人」から生きがいや喜びを聞く活動を取り入れることにより、地域の方との人間関係を深めさせる。

展開の特色

1 「達人集合」～この人に学ぶ～
「達人集合」～この人に学ぶ～は、本校においては、進路学習の特別プロジェクトとして総合的な学習の時間に位置づけています。
「達人集合」は、人の生き方や進路の多様な選択可能性を理解するための一つの試みとして始められました。生徒が、ゲストティーチャー（以下、ゲスト）との触れ合い（お話と実演）を通して、自分なりの生き方や進路を考え、そのイメージを膨らませ、望ましい「職業観」「勤労観」を育むことが大きなねらいの一つです。

2 地域との連携をはかる「達人集合」
本校は、多摩ニュータウン12番目の新設校として昭和63年に創立されました。
学年1クラスからスタートした本校も、年々生徒数が多くなり、現在では東京都では珍しい大規模校（14クラス）へと変化しました。昔からこの地域に住んでいた家庭は少なく、ほとんどがこの「地域」に転居した家庭から成り立っています。
「地域」に住んでいますが、「地域」を知らない家庭・生徒も多く、住民同士のかかわりは、それほど多くないと思われまます。
社会情勢の変化により、各家庭の価値観も多様化し、年々コミュニケーションを取るのが難しくなっています。

このような背景を受けて、この「達人集合」では、できるだけ地域（稲城市、多摩市など）の「達人」をゲストに迎えています。地域・保護者・生徒の触れ合いを実現するネットワーク型中学校の実現のための試みでもあります。

「達人集合」の授業は、公開授業として広く保護者や地域の方にも参観していただくようにもしています。

- 3 「達人集合」の流れ
- ① 2時間連続授業
「達人集合」は、2時間連続で行われます。最初の1時間は体育館でゲストの話や実演を観て、メモをとる時間です。

次の時間は、教室に戻り、担任からゲストの授業のポイントを振り返り、それぞれが考えたことをまとめる時間です。

- ② 「達人集合」運営上の工夫
生徒が体育館でゲストの話を中心して聞くようにするには工夫が必要です。
- ・事前にゲストに対しての質問を書かせ、話を聞く気持ちを高める。
 - ・ゲストは、仕事を休んでボランティアで来ていただいていることを伝える。
 - ・ゲストが一人で話をする講演方式ではなく、司会者との対話形式ですすめる。
 - ・テーマをしぼり、一つ的话题を短く、テンポよく、めりはりをつけて話すように司会が留意する。
 - ・生徒が記録する「達人集合」ノートを作成する。
 - ・授業の中盤に実演を入れる。
- ③ 教室での担任の支援
生徒が主体的に職業の意味や自らの生き方などについて適切に考えを深めることができるよう、例えば「先生は、この話を聞いてこう思いました。みなさんはどう思いますか?」といった呼びかけなど支援の手立てを工夫する必要があります。

構成

第1次	救急救命隊	（2時間）
第2次	報道記者	（2時間）
第3次	保育士	（2時間）
第4次	ホテルマン	（2時間）
第5次	いわゆるフリーター	（2時間）〈本時2/2〉
第6次	地方裁判官	（2時間）
第7次	職業や勤労について考え、小論「Myカルテ」にまとめる	（1時間）

事前の準備

- ・短学活で次回の予告をする。

次時の予告,用意

- ・保護者にノートを見せて、アドバイスを記入してもらう。（宿題）

本時の展開

- 本時の目標
- 1 いわゆるフリーターをしている人がいることを知り、望ましい職業観・勤労観を育む。
 - 2 目的をもって日常生活をおくることの大切さを学ぶ。

	学習内容	学習活動
事前学習	① 事前学習（短学活） ○次回達人の予告 ○質問カードにゲストに聞きたいことを記入する。	

教師の支援, 指導上の留意点	資料
・失礼な質問をしないよううながす。	・質問カード

学習内容・学習活動

<p>導入 (5分)</p>	<p>② 1時間目 (体育館)</p> <p>1. 朝礼の隊形</p> <p>2. 学年の主任の話 (心構えの確認)</p>	
<p>展開 (30分)</p>	<p>3. お話</p> <p>テーマ1 「人物」</p> <p>テーマ2 「中学時代」</p> <p>テーマ3 「きっかけ」</p> <p>テーマ4 「仕事生活」</p> <p>テーマ5 「仕事内容」</p> <p>4. 実演コーナー</p>	 <p>実演コーナー 救急救命隊</p>
<p>まとめ (15分)</p>	<p>テーマ6 「喜び・苦しみ」</p> <p>テーマ7 「信念」</p> <p>テーマ8 「アドバイス」</p> <p>テーマ9 「Q & A」三択クイズコーナー</p> <p>5. お礼のあいさつをする。</p>	
<p>導入 (10分)</p>	<p>③ 2時間目 (教室)</p> <p>1. ゲストの話をふりかえる。</p> <p>2. 難しい語句の確認をする。 担任の感想を述べる。</p>	 <p>フリーターから学ぶ</p>
<p>展開 (30分)</p>	<p>3. ノートに記入する。</p> <p>① ふりかえりシートを活用する。</p> <p>② 学んだことを記入する。</p> <p>※ゲストのお話に関する質問事項がある場合は、ゲストを教室までお招きして補足説明をしていただく。</p>	
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4. 自己評価を行う。 担任のまとめ</p>	

教師の支援, 指導上の留意点	資 料
<ul style="list-style-type: none"> おしゃべりをしないように, メモをとるようにうながす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○持ち物 ・  ワークシート (→p.342) ・ 筆記用具
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の質問カードを利用して, テンポよく質問する。 難しい語句は, やさしく解説する。 時間調整を行う。 実演がうまくいくように手伝う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・  ワークシート (→ p.342)
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の反応を見ながら質問内容を選択する。 三択クイズコーナーの司会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・  ワークシート (→ p.342)
<ul style="list-style-type: none"> 担任の考えを押し付けないように注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・  ワークシート (→ p.342)
<ul style="list-style-type: none"> うまく書くことができない生徒に, 記入する内容の視点をあたえるようにする。 落ち着いて書くことができる雰囲気をつくる。 ゲストを教室にお招きしたら, 司会者となり生徒とゲストとの交流がスムーズに行くように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・  ワークシート (→ p.343)
<ul style="list-style-type: none"> ノートにすべて書ききれない生徒は, 明日までの宿題とする。 保護者にノートを見せて, アドバイスを記入してもらう(宿題)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・  ワークシート (→ p.342, 343)

その他

① 本時の社会的背景

学校卒業時で就職も進学もしていない学卒無業者の増加や, 正社員ではないアルバイトなどの非正規で働く若者の増加が近年著しい。不況下にもかかわらず若者の自発的離職も増加している。特に首都圏では高校卒業後にいわゆる「フリーター」として非正規の職に就く者が急増している。このような背景のもと, 学校教育において①進学に偏らない進路指導, ②企業人の関与, ③詳しい職業情報, ④早期の段階からの進路指導などを求める声もあがっている。

現在フリーターの数200万人を越えていると言われている。「学校基本調査」(文科省)によれば, 高卒無業者比率は, バブルが完全な崩壊を迎えた1993年以降急上昇し, 2000年には35%まで達した。高卒の3人に1人がフリーター(あるいは無職)になっていることになる。ただしこれは高卒者のみにかぎられないことであり, 大卒無業者比率も2000年には27%を記録しているという。

② ゲスト

〇さん 29歳 フリーターをしている理由: 将来音楽活動で生計をたてたい

③ 授業の留意点

- ア. 今回は, 金銭教育(望ましい金銭感覚の育成)も行うので, 通常の「達人集合」とは違い, できるだけ具体的な金額を提示して考える授業にしたい。
- イ. フリーターに関しては, 社会的にさまざまな意見があるが, 現実を理解し将来の見通しを考えさせることができる授業にしたい。
生徒の発達段階を考えて, 国民年金や税金などのフリーターがかかえる社会的な問題については深入りしないようにする(3年「公民的分野」の学習への接続を考える)。

評価の観点

- ① いわゆるフリーターをしている人がいることを知り, 望ましい職業観・勤労観を育むことができたか(ノートへの記入から評価する)。
- ② 目的をもって日常生活をおくることの大切さを学ぶことができたか(自己評価表の記入から評価する)。

